

## タバココナジラミ

タバココナジラミバイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）

タバココナジラミバイオタイプQ

### ○ 被害と発生生態

幼虫から成虫までの各ステージで吸汁し、トマト黄化葉巻病等各種ウイルス病の媒介のほか、高密度の加害では葉の萎ちょう症状をや排泄物によるすす病の発生、トマトの着色異常果、カボチャの葉脈の白化を引き起こす。

本虫は、卵、幼虫(1令～3令)、蛹(4令)を経て成虫となる。20～30日程度で世代を繰り返す。山口県内での越冬は主として施設内で行われ、6月～9月には露地でも発生が増加する。

トマト、ナス、キュウリ、カボチャ等での発生が多いが、寄生範囲はきわめて広く、ダイズ、サツマイモ、メロン、キク、ポインセチア、ハイビスカス等の栽培植物のほかハルノノゲシ、ヨメナ、ヨモギ等の多く雑草に寄生する。

蛹（4令幼虫）は、長さ0.8～1.0mm、幅0.6～0.8mmの精円形で、後端が細まる。全体は淡黄色で、背面中央がわずかに隆起しており、数本の対をなした刺毛を有する。

成虫は、淡黄色ないしオレンジ色で白色の翅を持ち、体長は0.8mm程度で、オンシツコナジラミと比べるとやや小型である。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・施設の開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を張り、侵入を防止する。
- ・黄色の粘着トラップを設置して誘殺し、発生状況を確認する。
- ・栽培終了時には施設を密閉して野外への逃亡を防止する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・定植時に粒剤を施用する。
- ・バイオタイプQは各種の薬剤に抵抗性を持つため、気門封鎖作用を持つ薬剤や生物農薬等を組み合わせて使用し、効果の高い薬剤でも連続して使用することを避ける。



タバココナジラミ成虫



蛹

